

青年技術士交流実行委員会主催：「1・2次試験合格者交流会」参加報告

(注：今年度より各部会からの参加は「第二部」のみとなった)

1. 開催日時：平成 25 年 4 月 27 日 (土) 【第一部】14:00~18:00、【第二部】18:00~20:00
2. 開催場所：【第一部】田中山ビル 9F 会議室、【第二部】葦手第二ビル 5 階 A, B 会議室
3. 参加者数(関係者含む)：【第一部】約 60 名、【第二部】約 80 名

(注：原子力・放射線部門の新合格者の参加はなかった)

4. 概要：

【第一部】：参加者(合格者、委員)同士によるインタビュー、グループワーク

(注：青年技術士交流実行委員(副委員長)として参加した山中淳至 部会員の報告による)

今年も青年技術士交流実行委員会による 1 次・2 次試験合格者の歓迎会が開催された。昨年までは「部会説明+ディスカッション」という形で実施されていたが、今年は行事名を「交流会」と銘打ち、参加者同士の交流に特化した例会として実施された。

はじめに委員長から参加者に対して、これからの目標や動機などの心構えについて激励があり、青年技術士交流実行委員会の活動内容(例会、国際交流、サッカー/フットサル)について紹介された後、全員参加型のイベントとして、参加者同士でインタビューを行う「インタビュータイム」と、「グループワーク」を行った。このイベントは参加者ができるだけ多くの人と交流できるように考えられたもので、インタビュータイムとグループワークでメンバーが重複しないようなグループ分けが行われていた。

インタビュータイムでは、受付時に配布した飴の種類により 7 チーム(8 人/チーム)に分け、グループ内で総当たりによってお互いに「仕事・スキル」「資格」「今後の抱負・夢」などについてインタビューを実施した。これは短時間での自己紹介や自己 PR 向上に有効と考える。

インタビュータイム後、グループ分けを行い、新しいグループで「鉄腕アトム開発会議」と銘打って各グループを特別開発チームに見立て、鉄腕アトムを開発するために、「課題の抽出」、「問題の解決方法」について議論を行った。このグループワークはアトムを作る実現性は求めてはならず、問題解決のために使える技術は参加者が保有している技術のみとすることで、参加者にどういう人がいるかなどの印象を残すことが主な目的である。

この 2 つのプロセスを踏むことによって、参加者全員が全ての参加者の情報を知ることが出来るように工夫されている。かつ、インタビュータイムが呼び水となって、そのグループワークでも活発な意見交換がなされていた。青年委員会の例会はほとんどが参加型のイベントが多いが、この企画は非常によく練られており、参加者が主体的に取り組みやすい内容で、満足度も高いように思われる。

青年委員会の企画する例会は比較的参加者の年齢層が低く、且つ様々な部門の技術者と出会う機会が多い、今後の活動基盤となる技術士会において自分の所属部門にとらわれない出会い(横のつながり)と、先輩技術士から JABEE 出身者にいたるまで世代を越えた縦

のつながりを得ることができる。

部会としてもこのような総合的な例会に出席/参加することで、他の部門の技術者に我々部会の活動に興味を持ってもらい、新たな活動の場を見つけることができることを期待する。

【第二部】：各部会からの参加者も交えた懇親会

原子力・放射線部会からは阿部幹事と桑江の2名が参加した。

「第一部」に参加した1次・2次試験合格者、青年技術士交流実行委員に各部会からの参加者が加わり、立食形式の和やかな懇親会となった。

会場内には、部会紹介用の資料を置くテーブルが設置され、壁面には各部会模造紙1枚程度の掲示スペースが設けられた。

原子力・放射線部会からは、3月に発行されたCPD教材「原子力・放射線の整理と検討のための資料～3.11 福島第一原子力発電所事故について共に考える～」の表紙と「はじめに」の部分のコピーした資料を50部用意し、展示・配付した。また、壁面スペースの掲示には、原子力学会北関東支部若手研究者発表会(2013.4.19)で杉本幹事が作成・使用した資料を一部修正のうえ利用させていただいた(杉本幹事、ありがとうございました！)。

各部会・支部から1次・2次試験合格者に対し一言メッセージを述べるコーナーでは、桑江から、上記CPD教材作成の経緯とその過程で行われた各部会代表による熱い議論の様子等を紹介するとともに、「技術部門」の垣根を越えて議論ができるところが技術士会の最大の特徴であり「武器」である旨を述べ、当部会主催の講演会等への参加を呼び掛けた。

今年は残念ながら「原子力・放射線部門」の参加者はいなかったが、このような機会をとらえ、他部門の若手技術士、修習技術士に対しても部会の活動を紹介していくことは、部会としての新たな活動、他部会との連携の可能性を広げるうえで、何らかの効果があるのではないかと思う。

(文責：桑江良明)



他部門修習技術士の岡部さん(右)と筆者
(撮影：阿部幹事)